

MAJI によるアイゼンハワーへの背景説明書 - 1952 年 11 月 -

([SiriusDisclosure のウェブサイトより](#))

以下は、グリア博士の情報筋から博士に送られた、この背景説明書に関する註釈です。

(2015 年 1 月 17 日掲載)

アイゼンハワーへの背景説明書（1952 年 11 月 18 日）が、以下の註釈と共に、ある情報筋からグリア博士に送られた。

“MJ-12 文書は、件の情報に対する国民の反応を試す、一つの危機管理計画だった。私には海軍出身の友人がいるが、その彼が私にそう言った。マジエスティ（Majesty）ファイルは本物だ。彼は私に ‘Poderosa’ という暗語について、また MJ-12 文書にある大統領令がなぜ間違っているのかについても語った。彼らはある理由のためにそうした。そして_____プロジェクト・グラッジ／ブルーブック報告書 No.13 は 100 パーセント事実だ。私は 2011 年に、フレンド中佐をここレークウッドの自宅近くで夕食に連れ出したが、そのとき彼は私にこれを語った”

“MAJI とは Majority Agency for Joint Intelligence のことだ。すべての情報、偽情報、機密情報がこの機関により収集、評価される。この機関はすべての偽情報に関与し、CIA（中央情報局）、NSA（国家安全保障局）、DIA（国防情報局）、および ONI（海軍情報局）と連携して活動する。この機関はきわめて強力な組織で、異星人に関するあらゆるプロジェクトを統轄している。MAJI は MJ-12 に対してのみ責任を負う。MAJIC は、異星人に関連するすべての資料、プロジェクト、情報の機密区分であり、取扱許可のことだ”

“MAJIC は MAJI 管理（MAJI + controlled = MAJIC）だ。MJ-12 文書は、件の情報に対する国民の反応を試す、一つの危機管理計画だった。私にはある友人がいて、その彼がこれを私に語ったのだ。彼らはそれを大統領に見せるつもりなのだから、マジエスティ（Majesty）ファイルは本物だ。大統領が信用できる場合に彼らはそうするということだ”

背景説明書の邦訳を以下に掲載します。

国家安全保障情報

* 最高機密 *

複製禁止

原本

背景説明書： マジスティック 12 作戦

次期大統領ドワイト・D・アイゼンハワーのために作成された：（複製禁止）

1952年11月18日

警告： これは最高機密-複製禁止文書であり、合衆国の国家安全保障上きわめて重要な区画化情報を含む。本文書の閲覧をマジスティック-12 取扱許可を有する者のみに厳しく制限する。いかなる形式の複製も、また手書きか録音の筆記録によるかを問わずその書き写しも、厳重に禁止する。

 * 最高機密 *

複製禁止

原本

主題： 次期大統領アイゼンハワーのためのマジエスティック-12 作戦の予備的説明

1952 年 11 月 18 日 作成

説明者： ロスコー・H・ヒレンケッター提督（MJ-1）

註記： 本文書は予備的説明のためにのみ作成された。この後続く完全な作戦説明の序論とされたい。

マジエスティック-12 作戦は、最高機密の研究開発／情報作戦であり、合衆国大統領に対してのみ直接的な責任を負う。プロジェクトの実施は、マジエスティック-12（マジック-12）グループの管理下で行なわれる。マジエスティック-12 グループは、バンネバー・ブッシュ博士とジェームズ・フォレストル長官の提案にもとづき、1947 年 9 月 24 日トルーマン大統領の特別機密大統領令により設置された。（添付書“A”を見よ）マジエスティック-12 グループのメンバーが、下記のとおり指名された：

ロスコー・H・ヒレンケッター提督
 バンネバー・ブッシュ博士
 ジェームズ・V・フォレストル長官*
 ネイサン・F・トワイニング将軍
 ホイト・S・バンデンバーグ将軍
 デトレフ・ブロンク博士
 ジェローム・ハンセーカー博士
 シドニー・W・サウエルス
 ゴードン・グレイ
 ドナルド・メンツェル博士
 ロバート・M・モンタギュー将軍
 ロイド・V・バークナー博士

1949 年 5 月 22 日のフォレストル長官の死亡により、1950 年 8 月 1 日まで空席が続いた。同日にウォルター・B・スミス将軍がその後任に指名された。

* 最高機密 *

複製禁止

原本

1947年6月24日、ワシントン州のカスケード山地上空を飛行していた一人の民間人パイロットが、編隊を組みながら高速飛行する9機の円盤形航空機を目撃した。そのような物体の目撃例はこれが最初ではなかったが、この目撃は広く大衆メディアの注目を集める最初となった。同様の物体の目撃報告が、この後何百と続いた。これらの報告の多くは、きわめて信頼のできる軍と民間の情報源からもたらされたものだった。これらの報告を受け、軍のいくつかの組織は国防の観点からそれぞれ独自に、物体の性質およびその目的を解明するための取り組みを始めた。何人かの目撃者がインタビューを受け、報告された飛行中の円盤を航空機で追跡する試みも何度かあったが、成功しなかった。国民の反応は、時折自制不能といえるほどの興奮状態に陥った。

これらの取り組みにもかかわらず、物体について知り得たことはほとんどなかった。しかし、ある農場主からの報告が事態を急転させた。報告は、ロズウェル陸軍航空基地（現在のウォーカー空軍基地）の北西約75マイルに位置するニューメキシコ州の辺境地で、物体が1機墜落したというものだった。

1947年7月7日、科学的研究のためにこの物体の残骸を確実に回収する、秘密作戦が開始された。この作戦の遂行中に、航空偵察により人間に似た小さな4体の生命体が発見された。見たところ、生命体は機体が爆発する前のある時点で機体から放出されたようだった。これらの生命体は、残骸の東約2マイルの地点に落下していた。生命体は4体とも死んでおり、肉食動物の行動に加え、発見まで約1週間風雨に曝されていたため、腐敗が著しく進行していた。特別な科学チームが、研究のためにこれらの死体を引き取った。（添付書“C”を見よ）機体の残骸も、いくつかの別々の場所に移送された。（添付書“B”を見よ）現地の民間および軍の目撃者たちは事情聴取され、新聞記者たちには、物体が誤って落下した気象研究用気球であるという、効果的な虚偽の情報が流された。

* 最高機密 *

複製禁止

原本

大統領の直接命令により、トワイニング将軍とブッシュ博士が内密の分析作業を組織した。その結果、その円盤がおそらくは短距離偵察機であるとの予備的見解（1947年9月19日）を得た。この結論はその大部分が、機体サイズと、一見どこにも食糧が見当たらなかったことを根拠にしたものだった。（添付書“D”を見よ）乗員の4体の死体についても、同様の分析がブロンク博士の手配により実施された。博士らのグループは、以下の暫定的結論（1947年11月30日）を出した：これらの生命体は人間に似た外見をしているが、その成長に関与した生物学的、進化的過程は、ホモ・サピエンスの場合に観察される、または前提されるそれとは著しく異なっている。ブロンク博士のチームは、これらの生命体の呼称についてより確定的な合意がなされるまでは、それを指す標準用語として“地球外生命体”または“EBEs”を用いるよう提案した。

これらの機体の起源が地球上のどの国でもないことがほぼ確実であったことから、彼らはどこからやってきたのか、またどのような方法で地球にやってきたのかを巡り、多くの憶測がなされた。火星がその起源と考えられ、今もその可能性は残っているが、一部の科学者、中でも最も注目すべきはメンツェル博士であるが、彼らはより大きな可能性として、これらの生命体がまったく別の太陽系からやってきたものと考えている。

文字と思われる多数の模様が、残骸の中から発見された。これらを解読する試みは、これまでほとんど成功していない。（添付書“E”を見よ）同様に成功していない取り組みは、推進の方法、または利用している動力源の伝達方法やその基本的性質の究明である。この線に沿った調査を複雑にしている要因は、翼、プロペラ、ジェットなど、従来型の推進および誘導方法が完全に欠如していることに加え、金属配線、真空管といった電子部品がまったく認められないことである。（添付書“F”を見よ）推進装置は、墜落の原因となった爆発により完全に破壊されたと考えられる。

* 最高機密 *

複製禁止

原本

これらの機体、その性能特性、および彼らの目的について可能な限り多くの情報を得ることが必要であったため、米国空軍プロジェクト・サインとして知られる事業が1947年12月に始まった。安全を確保するため、プロジェクト・サインとマジエスティック-12の間の連絡は、空軍資材軍情報部に所属する二人の人物に制限された。彼らの役割は、いくつかの経路を使ってある種の情報を伝えることだった。プロジェクト・サインは発展し、1948年12月にプロジェクト・グラッジとなった。現在その作戦は、プロジェクトを率いる空軍将校を連絡役とし、ブルーブックというコードネームのもとで遂行されている。

1950年12月6日、テキサス州-メキシコ国境のエルインディオ-ゲレロ地区において、おそらく同様の起源を持つ第二の物体が、空中に長い航跡を残しながら高速で地表に衝突した。調査隊が到着したときまでに、物体の残骸はほぼ完全に灰になっていた。回収することができた物質は、研究のためニューメキシコ州サンディアの原子力委員会施設に移送された。

これらの訪問者の動機と最終目的がいまだにまったく不明であるという点において、本件は引き続き国家安全保障上の重要事項である。加えて、本年5月に始まり秋を通じて続いているこれらの航空機の調査活動は著しく増加しており、このことが、新たな展開が差し迫っているかもしれないとの懸念を高めている。これらの理由により、また国際的および技術的に考慮すべき自明な事柄のために、さらにまた国民のパニックをあらゆる手段を講じて回避する必要があるという最終的な理由により、マジエスティック-12グループは全会一致で、最大限の安全対策が新政権においても中断されることなく継続されるべきであるとの見解を堅持する。また同時に、国民向けの声明が必要になった場合の備えとして、危機管理計画 MJ-1949-04P/78（最高機密 - 複製禁止）が継続されるべきである。（添付書“G”を見よ）

* 最高機密 *

複製禁止

原本

添付書一覧：

- 添付書 “A” 特別機密大統領令
#092447. (TS/EO)
- 添付書 “B” マジスティック-12 作戦 状況報告書
#1, A 部. 30 NOV '47. (TS-MAJIC/EO)
- 添付書 “C” マジスティック-12 作戦 状況報告書
#1, B 部. 30 NOV '47. (TS-MAJIC/EO)
- 添付書 “D” マジスティック-12 作戦 予備的分析報告書.
19 SEP '47. (TS-MAJIC/EO)
- 添付書 “E” マジスティック-12 作戦 ブルーチーム報告書
#5. 30 JUN '52. (TS-MAJIC/EO)
- 添付書 “F” マジスティック-12 作戦 状況報告書
#2. 31 JAN '48. (TS-MAJIC/EO)
- 添付書 “G” マジスティック-12 作戦 危機管理計画
MJ-1949-04P/78: 31 JAN '49.
(TS-MAJIC/EO)
- 添付書 “H” マジスティック-12 作戦 地図および写真
フォルオ (抽出). (TS-MAJIC/EO)

* 最高機密 *

複製禁止
原本

添付書 “A”

(訳： 廣瀬 保雄)